

記載例

(例1)

テーマ	動植物性残さの飼料化
分類	再生利用
廃棄物の種類	動植物性残さ
業種	製造業（食料品製造業）
事業者名	食品工業
所在地	市××町
取組みの概略	食品製造工程で排出される原料くずなどを粉碎、乾燥などにより、飼料化に取り組んでいる。これは、資源の有効活用とリサイクル率向上、畜産農家の飼料コストの低減を目的としたもの。市の産業技術センター畜産部と大学に協力していただき、技術開発に取り組んだ。
従前の問題点	動植物性残さは自社内で焼却処理していたため、コストも高く、大気汚染などが懸念されていた。
取組期間	平成××年3月～
費用	約1,000万円（乾燥機等設備購入費）
効果	残さの処理量が30%減。処理費用も約3分の2に減少した。
今後の課題	飼料化技術を確立し、事業として拡大したい。また、近隣の農家及び食品廃棄物排出業者と連携してリサイクルシステムを確立したい。
関連情報	市で実施している「産学公連携技術開発事業」を活用し、市産業技術センターと大学の協力を得て技術開発を行った。
この取組みに関する問い合わせ先	担当：環境部 E-mail: @.co.jp

(例2)

テーマ	汚泥発生量の削減対策
分類	発生抑制
廃棄物の種類	汚泥
業種	製造業（繊維製品製造業）
事業者名	繊維工業
所在地	市 町
取組みの概略	繊維の脱水後に処理施設へ送られる排水から浮遊物質、有機汚濁を取り除くためのスクリーンを、従来のものより目の細かいものに交換した。 その結果、浮遊物質が約50%減少し、有機汚濁も大幅に減少したため、汚泥の発生量を約50%削減することができた。
従前の問題点	年間3,000トン近く汚泥が発生しており、生産量の増加によりさらに発生量の増加が見込まれていたため、少しでも発生量を削減する必要があった。
取組期間	平成××年12月～
費用	約150万円（スクリーン購入費として）
効果	汚泥発生量が半減した。 取組前：年間2,800トン 取組後：1,400トン （数値は脱水前重量で記載）
今後の課題	さらに削減をする必要があるため、検討中。
関連情報	
この取組みに関する問い合わせ先	担当：施設課 ： - -

(例3)

テーマ	使用済みプラスチックを原料としたコンクリート型枠の使用
分類	発生抑制 再生利用
廃棄物の種類	廃プラスチック
業種	建設業
事業者名	組
所在地	市 町
取組みの概略	コンクリート型枠パネルを、3～5回繰り返し利用することができる廃プラスチックを原料としたものに替えた。複数回の使用により品質が劣化したものは、鉄鋼業の高炉用原料としてリサイクルするシステムが構築されており、廃棄物の発生抑制と再生利用の両方の効果を図ることができた。
従前の問題点	受注した工事の件数の増加により、型枠パネルの廃棄量が増大していたが、これまでの木製の型枠パネルは単純焼却により処理していた。
取組期間	平成××年3月～
費用	
効果	複数回使用できることにより、従来の木製の型枠パネルと比較してトータルコストは低減した。また、現場での廃棄物の発生抑制を図ることができた。
今後の課題	現場での分別をさらに徹底し、他品目についても再生利用率を上げていきたい。
関連情報	当社発行の環境報告書に詳細を記載。環境報告書は、当社ホームページ( <a href="http://www. .co.jp">http://www. .co.jp</a> )でも見ることができます。
この取組みに関する問い合わせ先	担当：総務部 ： - - E-mail： @ .co.jp